
とある転生の交換法則(ルールチェンジ)

エクスタシー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある転生の交換法則
ルールチェンジ

【Nコード】

N0296X

【作者名】

エクスタシー

【あらすじ】

気がつけば川が流れる花畑…じゃなくて何処までも真っ白な空間に俺はいた。なんだかんだ思っていると神が出てきて転生させてくれるらしい。しかも原作ブレイクしろって！？よっしゃラッキーなんなら能力もチートにしちまえ！

〳〳お知らせ〳〳

この小説で出てきた名前と同じ名前を使っている人や同じ名前の人

がいたらすみません。

第一話 プロローグ（前書き）

どうもエクスタシーです。今回はインデックスです。

第一話 プロローグ

???

side

俺は細川拓海。企業に内定をもらえなくて就職を諦めてバイトのかたわら漫画やアニメのグッズを集めている簡単にいえばオタクだ。今日は家で禁書を読み返した後コンビニに向かっていたはずなんだが…

拓「ここは何処だー！」

何故か大きな川が流れる花畑…じゃなくて何処までも真っ白な空間に立っている。すると突然後ろから声がした。

? 「お主は死んだんじゃよ」

拓「お前はd「ワシは神じゃ」ひとがしゃべってんのに間に入ってくるな！」

神「まあ、とにかくお主は死んだんじゃ。ワシのせいだな」

拓「…は? いま、なんと?」

神「じゃからワシのせいで死んだんじゃよ。わかってくれたかの?」

拓「ふ、ふ、ふざけるなー! 何か? まだ恋もしていないのに死んだのか俺は!?!」

神「そういっとるじゃろが」

拓「はあ…。不幸だ…」

神「じゃがな、死んでしまったお主を生き返らせようと言うことになったのじゃ」

拓「え！生き返るの！？」

神「うむ。しかしお主がいた世界には無理じゃ。お主は死んでしまったからの」

拓「よっしゃー！テンプレ的展開！いくところと能力は選らばせろよ」

神「いくところは参考程度にな。能力はすきなのを選ぶと良いぞ」

拓「んじゃ早速。いくところは一番好きなどある魔術の禁書目録の学園都市。インデックス

ルールチェンジ
能力は俺が考えた交換法則。当然ながら能力値はLEVEL5。超能力と魔術はどちらも使えるようにしてね。あと俺が知っている物（漫画、アニメ、ゲーム、小説等）の技は全てノーリスクで使えるように。それから魔力、霊力、気、その他は全部MAXで。あ、それと今までの記憶とこれからの記憶は全部忘れないようにしてくれたら満足かな♪あ、やっぱりお願い何回でも出来るようにして。それがあればあとはいいよ。」

神「す、すごいチートじゃな…まあこんぐらいチートじゃないとあれはできぬが…」

拓「で、転生するところは決まったの？違うところならまた変える

けど」

神「お、おう。そうじゃった。いくところはある魔術の禁書目録インデックスのパラレルワールドじゃ。それと、条件がある。この条件をクリアしないならお主は死んでもらうしかないじゃろな」

なんだろ？まさか原作に関わるな、とか？そういうのだったらやだな

神「お主は…原作ブレイカーとして当麻さんと同じ高校に通うのじゃ！」

拓「……は？」

神「じゃから原作ブレイクしてほしいのじゃよ。ちなみにいく世界条件共に満場一致じゃ。それとお主が行動しやすいように年齢は当麻さんと同じ高校一年生にしたいからの」

拓「り、理由は？」

神「そんなもん決まっとるじゃろ。お主には言っとらんかったがいま天界でとある魔術の禁書目録インデックスととある科学の超電磁砲レールガンが大流行での。知らぬ者はいらんのじゃ。」

拓「へ、へー」

神「と言うことでじゃあのだ」

神がそういうと拓海の下に穴ができた。

拓「へ? うわ、うわあああー!」

第一話 プロローグ（後書き）

感想、指摘等はどしどし送ってください。

第二話 姫との出会い（前書き）

第二話です。

第二話 姫との出会い

拓海 side

拓「うわあああー！」

どうも細川拓海です。何故俺は叫んでいるのでしょうか？それは…空を飛んでいるからです☆

拓「と、とりあえず…ルール俺は空間転移テレポートを使う事が出来るチェンジ！」

そういうと俺は近くのデパートの屋上に転移した。

拓「ふー。助かった。まったくもう少しましな場所に転生させろっつーの」

神「(すまぬの。でも転生させるとそうなるんじや。なんでじゃろ?)」

拓「(うわ！びっくりさせんな！なんだどうなってんだ?)」

神「(これはお主とワシが使える念話じゃ頭で『神』と『念話』を交互に思い浮かべれば出来るからの。いい忘れておったがお主の前の名前はもう使えないからこっちで適当につけといたぞ。あと家の住所はポッケの中にある紙を見てくれよ。それじゃあの。)」

拓「(ちょっと待て！さっきの言い方、何人も転生させたみたいだったけどこの世界に他の転生者がいるのか?)」

神「（いや、おらぬよ。じゃが他の世界にはおるぞ。例えばリカルでマジカルな世界とかにな）」

拓「（そうか、わかった。じゃあな）」

よっしゃラッキー。転生者いない世界で良かった。んじゃ早速寮に行って挨拶でもしますか。えーといまは7月15日って明日からレールガン始まりじゃん！ま、いつか。俺の仕事は原作ブレイクなんだから。とりあえず寮いこー。

拓「ここが寮か…なんか原作より綺麗だな。まあ学園都市だかんな」

えーと俺の部屋は…あったあった。ん？そういえばさっき神がいに名前つけといたと言ってたなえーとどれどれ。お、五十嵐英樹いかい名前だな。えーとお隣さんは…よっしゃ当麻さんだよ。ってことはその奥が土御門の部屋か。あいつ、俺にもろ介入させるきだな。ま、いいけど。挨拶しとくか。

《ピンポン》

当「はい、いま行きます。っと、あぶねー。はいはい、どちら様ですか？」

英「こんにちは今日引っ越してきた五十嵐英樹です。隣の部屋なのでよろしくお願いします。」

当「そんなに固くならなくてもいいと思うぞ。上条当麻だ。俺のことは当麻でいいから。とりあえず中に入れてくれ。」

英「わかった。当麻も俺のことは英樹でいい。これからよろしくな」

よし、当麻には接触できた。あとは美琴か：

英「じゃあ俺はこれで」

当「おう、じゃあ明日学校でな」

英「んー電撃姫はどこにいるのかな？とりあえずなんか飲も。」

俺は近くのコンビニに入ろうとしたが、

不良「嬢ちゃんちょっと一緒に遊んでくれない？」

そんな声が聞こえた。

英「（これはヤバイ？助けないとな）おい！そこのやつその子を離せ！」

不「あん？誰だ、てめえ」

英「只のふがない高校生だ！」

不「んじやとつと向こう行きやがれ！」

英「うるせー！」

そう言いながら俺は能力を発動させる。

英「（ルール俺は重力を自由に変えられるチェンジ！）」

不「な、なんだこれは！体が動かねえ！ってめえなにしゃがった！」

英「なに、簡単なこと。お前らの回りだけ重力を二倍にしただけだ！」

そんなことをいってると電撃が飛んできて不良達を消し炭にした。

英「（あれ？俺いつ電撃放ったつけ？）まあいいか。お嬢さん大丈夫かい？」

美琴「あんた何もんよ。わたしと勝負しなさい！」

英「（うわー。やっちゃったよ。嬉しいけどもう少しましな出会い方なかったのかよ）ち、ちよつと待て。俺は五十嵐英樹。只の大力者（LEVEL4）だぞ？」

美「じゃああの能力はなによ？見たことも聞いたこともないわよ」

英「うっ!？あ、あれは、その、えーと、何て言うk「ジャッジメントですよ!」え?」

美「く、黒子!？」

黒子「あら、通報にあった女の子と言うのはお姉様のことでしたの。それからそちらの殿方は?」

美「あ、あいつは「困ってた女の子を助けてやったんだ」女の子言うな!」

黒「そうでしたの。ですが事情を聞きたいので一度支部に来てくださいますし」

英「わかったよ。」

第二話 姫との出会い（後書き）

感想、指摘等はどしどし送ってください。

第三話 事情聴取（前書き）

短いです

第三話 事情聴取

黒子 side

どうもはじめまして。私、お姉様の露払いをしている白井黒子と申しますわ。いま通報があったのでかけつけたのですが『不良に絡まれている女の子』というのはお姉様のことでしたの。ですがお姉様と一緒にいた殿方：五十嵐英樹さんがお姉様を助けようとしたとか。まあ詳しい話は支部で聞きますわ。

side out

英樹 side

あぶねー。黒子が来てくんなかったら今頃姫に追いかけてたよ。でもこれから事情聴取か…。多分大丈夫だよな、戸籍。あれ？俺罪に問われたりしないよね？まあそんなときは逃げるか。そんなこんなでいま事情聴取されてまーす。一七七支部って快適だな。

黒子「なるほど。最後はお姉様が止めをさしたと…。わかりましたわ。あなたは無罪放免でいいですわ。もう完全下校時刻まで時間がないですし。ところで、あなたの能力、えーと、交換法則ルールチェンジでしたか？どんな能力ですか？」

やばっ！姫が能力次第じゃこれから勝負よ！って顔してる。まあ、かくしてもしようがないか…

英「この能力はな、簡単に言うとな俺が世の中の法則を変えることができるんだ。」

黒「どういう意味ですの？」

英「そうだな、例えば、ルール俺は風力使い（シューター）のLEVEL3であるチェンジ！って言えばほら、風」

そう言って俺は風を吹かせた。

英「わかった？」

黒「すごい反則な能力ですわね」

英「まあ空間と自分以外の人には使えないんだけどな」

黒「わかりましたわ。では、今日はこれで。くれぐれも事件に巻き込まれないようにして下さいな。」

英「わかったよ。んじやな。」

美「あ！ちょっと待ちなさいあんた！」

黒「お姉様、このあとわたくしとのスキップをしてくださいまし！グへ、グへへへ。お姉様とあんなことやこんなことを…」

美「黒子！放しなさい！」

英「ありがと、黒子。ルール俺は大能力者（LEVEL4）の座標ポイント移動であるチェンジ！」

美「あ！こら、待ちなさい！」

誰が待つか！

第三話 事情聴取（後書き）

感想、指摘等はどしどし送ってください。

第四話 始まりの朝（前書き）

かなり強引なところがありますが勘弁してください

第四話 始まりの朝

英 side

英樹は今自分の部屋…の隣の当麻宅にいる。当然当麻は目覚まし時計のセットしわすれで起きてない。

英「起きろー当麻ー」

そう言いながらLEVEL2くらいの電撃を足から流す。

当「ウギャギャギャギャー」

英「やっと起きたか…」

当「…うん？英樹？普通に起こしてくれ…」

英「いやーだって楽しいんだもん」

どうも、五十嵐英樹です。いやー今日からレールガン始まりますよ。てか、いま目の前で美琴さんが不良に絡まれていますよ。ここは気づかれないように行きたいなうん！「あ！ちよつとあんた！待ちなさい！」…無理か。

英「何か？」

美「何か？じゃないわよ！昨日は良くも…」

英「いやーあれは…」

美「いいから勝負よ！」

英「（何か逃れる術は…！）当麻！ここは頼んだぞ！」

当「え？お、俺！？って、あ！待て。待って下さい英樹様」

そして俺は無事逃げて当麻は犠牲になった。

英「おーここか、キレイだなー。えっと、まずは職員室職員室。」

英「失礼しまーす。転入生の五十嵐英樹です」

小萌「はいはい。五十嵐ちゃんはこっちです」

英「（うお！知ってはいたが本当に赤いランドセルが似合いそうだし）どうも、転入生の五十嵐英樹です」

小「五十嵐ちゃんの担任になった月詠小萌ですー。よろしくですー。さっそくですけどせんせいが合図するまで廊下で待っててくださいですー」

英「わかりました。（そういえば当麻は生きてるかな？ま、大丈夫だろ）」

小「はいはい席についてください。今日はなんと転入生が来ま

したー。しかも男の子でーす。」

それを聴いて喜ぶ女子と落ち込む男子。

小「さあ新入生ちゃん、どーぞー！」

そう言われて俺は教室に入って行く。自己紹介をしてH Rが終わると恒例の質問攻め。ちなみに席は当麻の後ろだった。

ご都合主義で授業が終わり放課後、当麻達は話したいようだったが、レールガンに介入するために急いで柵川中学に向けて足を進めるが、途中の路地で誰かにぶつかってしまった。

英「すみません。」

？「いえ、こちらこそ…」

英「あ！昨日ジャッジメントの支部にいた…」

初「確か五十嵐英樹さんですよね」

英「はい。えと初春飾利さんと…」

初「私の友達の佐天涙子です」

佐「初春、誰？」

初「あ、こちら昨日御坂美琴さんを助けようとした五十嵐英樹さんです。あ！そうだ！このあと御坂さんに会いに行くんですけど一緒にどうですか？」

英「ああ、そうさせてもらうよ」

接触完了！

第四話 始まりの朝（後書き）

感想、指摘等はどしどし送ってください

主人公紹介（前書き）

主人公紹介です。

主人公紹介

主人公説明

名前…五十嵐英樹 いがらし ひでき

能力…交換法則 ルールチェンジ

超能力者（LEVEL5）だが偽って大能力者（LEVEL4）にしている。

「ルール○○○○○チェンジ」と思うだけでそのことが現実になる。効果範囲は自分から2km。ただし、他人に使用しても効果が無い。他人のいる空間なら使用可能。

超能力と魔術はどちらも使える。

漫画、アニメ、ゲーム、小説等の技は全てノーリスクで使える。

魔力、霊力、気、その他は全部MAX。

完全記憶能力を持っている。

神に何回でもお願いを聴いて貰える。

性格…当麻ほどではないが人が困っていると助けたくなる。

容姿…魔法少女リリカルなのはのクロノ（striker時）

主人公紹介（後書き）

感想、指摘等はどしどし送って下さい。

第五話 超電磁砲と交換法則（前書き）

スランプです。文がぐだぐだです。矛盾してます……

第五話 超電磁砲と交換法則

美琴 side

今日は後輩の黒子が初春飾利さんって人を紹介してくれるらしいんだけど…

黒子「じゃあ改めて紹介いたしますわ。こちら柵川中学一年の初春飾利さんですの」

初「う、初春飾利です。宜しく願います」

黒「それから…」

佐「初春のクラスメートの佐天涙子です。何かわかんないけどついて来ちゃいましたー。因みに能力値はlevel10です」

初「ち、ちよつと佐天さん…」

美「初春さんに佐天さん。私は美坂美琴。宜しく」

佐「よろしく」

初「願います」

黒「それと…」

美・黒「なんであんな（貴方）がここにいるのよ（んですの）？」

英「いやー。あの御坂さんに会えると聞いて一緒にいて来ちゃいましたー。エヘッ☆」

美「そのしゃべり方キモいから止めてちょうだい」

英「まあ、冗談はおいといて、質問なら後で受けるから初春さん達を構ってくれ。俺は今日の主人公じゃないんだからな」

黒「では、つつがなく紹介も済んだところで、多少予定は狂ってしまいました。今日の予定はこの黒子がばっつー」 バコン

黒子が狂って来たので殴って黙らせた。

美「まあ、こんなところにも暇だしとりあえず…ゲーセン行こっか」

初「え」

佐「ゲーセンですか…」

美「ほら、黒子いくよ」

そう言って私達は歩き出した。

side out

英樹 side

ふう…後で質問攻めにあうのを引き換えに何とか話を進めることが出来たぜ…。

ゲーセン行く途中で美琴の趣味でクレープ屋に行くことになった。
俺らが席を取っていると美琴が沈んでいたが直ぐに治った。確かこの後連続爆破強盗事件とかいうのが起こるんだよね…。と思っていたら初春が気づいた。

初「あれ？あそこの銀行、なんで昼間から防犯シャッター下ろして
いるんでしょう？」

その瞬間銀行の防犯シャッターが爆発で吹き飛んだ。黒子と初春が直ぐに反応した。

黒「初春！アンチスキル警備員への連絡と怪我人の有無の確認。急いでくださいな！」

初「は、はい！」

美「黒子！」

黒「いけませんわお姉様。学園都市の治安維持は私達ジャッチメント風紀委員のお仕事。今度こそ見ていて下さいな。それと、貴方もですわよ。」

英「あ、やっぱり？」

そして黒子は犯人達のところに走っていった。確か犯人の一人が佐天さんを蹴るんだったな。うわ、なんか腹立って来た。と思ったらバスのガイドさんみたいな人が男の子を探しに広場から出ようとしていたから

英「じゃあみんなで見つけよう」

と言って俺、佐天、初春、御坂、ガイドさんで探している。黒子の方は発火能力者との勝負が付いた。すると

不良「な、なんだデメエ。放せよ！」

不味い！そう思った俺は咄嗟に佐天と不良の間にテレポートした。しかしただ移動しただけで防御も何もしていなかった為にそのまま蹴られた。さすがは男子高校生の蹴り。威力はある。

男はちっ、と言いながら車に向かった。確かこの後Uターンして戻って来るんだよな。あ、美琴がもう道路に立ってる。急がなきゃな。

英「ルール俺は発電能力者エレクトロマスターの超能力者であるチェンジ！」

そう言いながら美琴の元に向かう。

英「俺も入れてくれ」

美「あんたもう大丈夫なの？」

英「ああ。それよりも来たぜ」

車がこっちにUターンして向かってきた。

俺も美琴と反対側を向いて同時にコインを投げた。コインが二人の指に当たった瞬間道路上で二本のオレンジ色の線が車を吹き飛ばす。過剰防衛だが気にしない。そして事件は終わりを告げた。

第五話 超電磁砲と交換法則（後書き）

感想、指摘等はどしどし送って下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0296x/>

とある転生の交換法則(ルールチェンジ)

2011年11月13日23時01分発行